

## 第1回ふれあい自然観察会

### 「コアジサシと浜辺の生きもの」

須田 聰恵（千葉市）

日 時：2009年6月7日（日） 9時～12時 天気：快晴

参加者：大人 26名 子ども 21名 計 47名 千葉市環境保全推進課 2名

指導員：太田慶子、奥村昭、木下順次、須田聰恵、武田宏子、田島正子、谷英男、

成田篤彦、前田佳胤、前田悦子、松川裕、盛一昭代

観察コース：検見川の浜～ヨットハーバー～稻毛の浜

雨のため順延になった観察会当日は、雲一つない快晴で朝から30℃もありましたが、検見川の浜に出ると暑さを忘れさせてくれる浜風が吹いており心地よいスタートとなりました。遠くにアクアラインの「海ほたる」がはっきりと見え、ウンドサーフィンやヨットで楽しむ人々で賑わいを見せている浜辺の観察（砂の溜まる所と波で削られる所の比較）をし、波が砂をさらっていくのを防いでいる階段護岸に「人工の浜」であることを感じました。

浜辺で貝殻を集めて仲間分けをしながら「この貝に丸く穴を空けたのは誰…」の問い合わせに？？ツメタガイの捕食に「貝が貝を食べるの？」との質問。その詳しい説明に感心しながら浜へ～。「わあ～ラーメンみたい！」の声に振り返ればカンザシゴカイの棲管の固まりでした。子どもの感性にほっこり！初めはなかなか見つからなかった生きものでしたが、ヤドカリを捕まえてからは大人も童心にかえり水の中へ。みんな目が慣れてきて次々に発見！！石を動かすとカニ・カニ。形や模様、はさみとその間を観察するとカニの名前が分かることや雌雄の見分け方を教わり、こわがっていた子も楽しそう～に。イソガニ・タカノケフサイソガニ・マメコブシガニ・チチュウカイミドリガニ・珍しいテッポウエビを喜々として見つける中で、子どもたちは、生きものが石や砂の色に似た色をして身を守っている事にも気づいてきました。アオサから青潮・赤潮に話題が広がり、気温や風による海底と海面の循環を知りました。

10時33分干潮。潮が引いた砂浜には、たくさんのツメタガイの卵ノウ、四つ目のミズクラゲやアカエイの死骸が波に漂い小魚もたくさん泳いでいました。砂浜には無数の穴・穴・穴。そして、モンブラン状の塊・大小の砂団子も発見。防波堤や護岸ブロックを良く見ると上からアラレタマキビ・フジツボ・イボニシ・イソギンチャクが順に見られ、満潮時の位置が分かる帶状分布だそうです。波しぶきで生きられるアラレタマキビが潮の目安になることも分かりました。堤防には、びっしりとイボニシの卵ノウが黄色い菊の花びらを散らしたようについていました。コアジサシの保護区へ。しかし、鳥の姿が見られず残念！！安心して営巣できる環境をつくることの必要を痛感しました。ヨットハーバーでは、イワツバメが忙しく巣つくりをしている様子を見て稻毛の浜へ。ハマダイコン・ツルナ・オカヒジキ・ハマヒルガオなどの海岸植物は潮風に耐える工夫をして逞しかった！

参加された皆さんのが感想：人工の検見川の浜なのに生き物の多さに驚き、身近にこんなにも豊かな自然があつたことを丁寧な説明で気づき、見捨ててしまいそうな生き物に目を凝らして観察したことに新鮮な感動を感じ、本当におもしろく、そして楽しかったです！！！ 野鳥の保護区があることを知り、今年はコアジサシに出会えなかつたけれど大切にしていきたいと思います。



潮が引いた浜辺で観察